編 集 後 記

大量生産，大量消費の時代から，将来に向けて持続可能な社会にしていくという社会全体の方向性に伴い，高度成長期に整備された既存構造物・既存設備の更新工事やリニューアル工事の市場も，近年大きくなってきております。

10月号の特集テーマである,『解体，3R，建設発生土・廃棄物処理』を深掘りすることは，技術的だけでなく，人類の喫緊の課題としても非常に重要なことであると捉えることができます。一方で，この分野は，ネガティブな見方や，他に比べて先進的な分野とは言い難いこともあり，社会のルールを逸脱した出来事や，グレーゾーンの存在も多々指摘されている所でもあると思います。また，これまで，何もないところに一から構造物・設備を造ることに専念してきた小職においては，大変難しくもあり，勉強になるテーマでした。

このようなことから，本特集としては，明るい新技術や，その礎となる基礎技術を取り上げることにより，今一度,『解体，3R，建設発生土・廃棄物処理』に正面から向かい合い，再考していくことを再認識していただきたいという思いをもって取り組んでまいりました。

巻頭言では，東海大学の細田先生に『本格化するサーキュラーエコノミー』と題してご寄稿いただきました。先生は，リデュース･リユース･リサイクル推進協議会の会長も務められており,『共創原理によって建設副産物の高度な利用を』と述べられております。

また，行政情報として，今なお記憶に深く刻まれている福島第一原子力発電所の事故における，除染土壌等に関する取り組みについて環境省から情報提供をいただいております。

特集報文では，RC 床版の解体・撤去技術や世界最大級の大型重機による煙突の解体技術，解体した建物の構造部材を新築構造物へ活かすリユースの取り組み，産業廃棄物処理施設の DX 技術導入事例等を紹介しています。

今号で紹介した様々な技術が，将来に向けた持続的社会の創造の一助となることを期待しております。

最後になりますが，ご多忙のところ急なお願いにも関わらずご寄稿いただきました皆様，編集にご尽力いただきました皆様に，心より御礼を申し上げます。

（岡田・丹）

機関誌編集委員会

編集顧問

今岡　亮司　加納研之助
後藤　　勇　新開　節治
関　　克己　田中　康之
田中　康順　中岡　智信
渡邊　和夫　見波　　潔

編集委員長

中野　正則　日本ファブテック㈱

編集委員

吉田　真人　国土交通省
大津　太郎　農林水産省
早矢仕　明　㈱鉄道・運輸機構
岡本　直樹　(一社)日本機械土工協会
丹　　秀男　鹿島建設㈱
田村　　憲　大成建設㈱
岡田　雄大　清水建設㈱
田下依莉花　㈱大林組
鈴木　秀之　㈱竹中工務店
小林　茂樹　㈱熊谷組
田浦　義真　㈱奥村組
京免　継彦　佐藤工業㈱
加取　　新　鉄建建設㈱
副島　幸也　㈱安藤・間
眞鍋　　匠　五洋建設㈱
那須野陽平　東亜建設工業㈱
佐藤　　裕　日本国土開発㈱
丑久保吾郎　㈱ NIPPO
室谷　泰輔　コマツ
二塚　勇吾　キャタピラージャパン
花川　和吉　日立建機㈱
丹治　雅人　コベルコ建機㈱
漆戸　秀行　住友建機㈱
大竹　博文　㈱加藤製作所
田島　良一　古河ロックドリル㈱
鈴木　健之　施工技術総合研究所

事務局

（一社）日本建設機械施工協会

11 月号「港湾・海洋・海岸施設特集」予告

・港湾工事における二酸化炭素排出量削減に向けた検討 WG における取組紹介　・港湾工事における“新技術カタログ”第 2 弾　・先行杭方式を用いた大型ジャケットによる桟橋工事　・水中掘削機による硬質地盤対応のオープンケーソン工法　・超大型プレキャスト部材を用いた桟橋上部工の急速施工技術　・水中作業の ICT 技術 水中無人化施工技術の開発　・3D プリンティング技術を用いた施工効率化の取組　・港湾コンクリート構造物に対する高機能型表面保護塗料の開発　・実写 VR 空間で杭の誘導が行える「Pile T-Real」を開発　・浚渫作業が体験可能なゲームシミュレーターの開発　・UAV ヘリによる港湾施設の 3 次元形状測量システム　・LiDAR-SLAM 技術を活用した運搬船積載量計測システム　・海底調査技術（しんりゅう 6000）　・RaftCam を使用した桟橋上部工と海面の狭隘空間における床版下面部点検技術　・水中フォトグラメトリ装置による構造物点検への応用

【年間定期購読ご希望の方】

①書店でのお申し込みが可能です。お近くの書店へお問い合わせください。
②協会本部へのお申し込みは「年間定期購読申込書」に必要事項をご記入のうえ FAX をお送りください。
詳しくは HP をご覧ください。
年間定期購読料（12 冊） 10,032 円（税・送料込）

建 設 機 械 施 工

第 77 巻第 10 号（2025 年 10 月号）（通巻 908 号）
Vol. 77　No. 10　October　2025
2025（令和 7）年 10 月 20 日印刷
2025（令和 7）年 10 月 25 日発行（毎月 1 回 25 日発行）
編集兼発行人　　金　井　道　夫
印　刷　所　　日本印刷株式会社

発 行 所　本 部　一般社団法人　日本建設機械施工協会
〒 105-0011 東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 8 号　機械振興会館内
電話（03）3433-1501；Fax（03）3432-0289；https://jcmanet.or.jp/

施工技術総合研究所	〒 417-0801 静岡県富士市大渕 3154	電話（0545）35-0212
北 海 道 支 部	〒 060-0003 札幌市中央区北三条西 2-8	電話（011）231-4428
東 北 支 部	〒 980-0014 仙台市青葉区本町 3-4-18	電話（022）222-3915
北 陸 支 部	〒 950-0965 新潟市中央区新光町 6-1	電話（025）280-0128
中 部 支 部	〒 460-0003 名古屋市中区錦 3-7-9	電話（052）962-2394
関 西 支 部	〒 540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4	電話（06）6941-8845
中 国 支 部	〒 730-0013 広島市中区八丁堀 12-22	電話（082）221-6841
四 国 支 部	〒 760-0066 高松市福岡町 3-11-22	電話（087）821-8074
九 州 支 部	〒 812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-4-30	電話（092）436-3322

本誌上への広告は Santana 有限会社 サンタナ アートワークスまでお申し込み，お問い合せ下さい。
〒 103-0013　東京都中央区日本橋人形町 2-21-5　井手口ビル 4F　TEL：03-3664-0118　FAX：03-3664-0138
E-mail：san-mich@zam.att.ne.jp　担当：田中